

第2回「これからの学生生活をともに考え、見守る研究会」開催報告

(2022年9月24日理事会報告より抜粋)

1. 日時・場所

7月11日(月)17時～18時30分公開研究会、18時40分～19時委員研究会 オンライン zoom 開催
* 第2回より、研究会の公開を行い、学生・教職員、マスコミ、会員生協等を開催案内を送り参加を募った。
公開研究会終了後に、委員と事務局のみの研究会を行い、独自議題について論議した。

2. 出席者 委員・事務局 21名 + 公開参加者 83名、合計104名

- (1) 委員・事務局出席者 21名 学生7名、教員4名、メディア等4名、専務理事1名、事務局5名
- (2) 公開出席者(委員・事務局以外) 83名
学生3名、教員5名、大学職員5名、大学関係5名、官公庁5名、大学生協役員(除く事業連合)17名、
事業連合22名、大学生協共済連2名、ブロック4名、マスコミ5名、リスク講座2名、生協関係2名、
全国大学生協連3名、不明3名

3. 議題と内容

メインテーマ 『就職活動の今～ガクチカなど学生の困り事、生協や社会でできる事～』

<公開研究会>

- (1) 第2回研究会について
- (2) 委員報告と委員ディスカッション
報告:「コロナ禍における就職活動の実態～いま学生に必要な支援について考える～」

山形大学松坂暢浩准教授

- (3) 全体ディスカッション (4) 次回以降の研究会について

<委員研究会>

- (1) 委員交代自己紹介 (2) コロナ禍の大学生活アンケート (3) 学生ネットワークについて
- (4) SEQを活用した学生支援企画について (5) 次回以降の研究会について

<公開研究会における主な意見>(発言録抜粋)

(1) 学生

- ・ネット就活で、学生はネットの話がよかったになりがち。
- ・就活は企業と戦っている、挑んでいる感があつて苦しい。社会から応援されている、迎えられていると感じられると良いのだが。
- ・自分がだめかもしれないと思った時は、友達存在が大きかった。
- ・サークルに入れていない3年生がガクチカ探しにあせって、マルチ商法的手法のインターンについている学生がいる。
- ・理系学生なので、今回3、4年生、大学院1、2年生でこんなことをしている情報が知れて良かった。
- ・民間就活だったが、公務員に自分のやりたいことを選択肢が出てきて、並行して就活している。
- ・早期化で3年生5月からインターンシップ参加。早期優遇で決まる学生がいた。自分は開始1年後に内定。
- ・友達と会えない中での就活で、今就活の話をして大丈夫なのか。内定得た学生が、茶髪ネイルで、さりげなく終わったアピール。距離感や様子を見ながらの就活がある。
- ・教員養成系大学で、就活情報が少ない。コロナで先輩からも聞けない。

(2) 松坂先生

- ・ガクチカは、他人より凄い体験があることが大事なのではなく、自分の人柄や成長を、小さなことでも良いので、きちんと話せる事。他人との比較ではなく、取り組み前後の自分自身の変化に目を向けることが重要。
- ・学生同士、情報が得られるコミュニティが必要。例えば大学生協の学生委員が関わりが持てる場があると良い。
- ・文系理系では進路支援が違う。理系は院進学の情報も必要だし、専攻ごとにも違う。大学生協が大学と一緒に支援を。
- ・地域企業に目を向けるのは1、2年生が良い。地域の企業研究で理解が深まり、キャリア意識も高まる。インターンも。
- ・頭ではわかるがなかなかできないのも就活の難しさ。大学生協や大学の就職サポートを活用してほしい。

(3) 他

- ・現3年生は対面授業が増えてもいきなり友達が増えるわけでもない。生協は人と人をつなげるのが得意なので、就活生の交流会や、企業説明会での場づくりなど、会員生協や事業連合で具体化ができれば。

- ・つなぐことが大事。横を繋ぐのはお互い競争相手でもあり難しいが、就職した人などと縦を繋ぐことが重要かも。
- ・地方で中小企業と繋ぐ場合、自治体とともに地元企業情報を持っているのは信金。協同組合金融機関の信金・信組と大学生協、自治体や大学の連携で、中小企業インターンシップは可能でしょうか？
- ・(松坂先生) 産学金連携も重要。地域金融が積極的に連携の事例も。広く地域で人と人とを繋ぐために、大学生協が音頭をとってもよい。

4. 第3回に向けて

- (1) 事務局会議 (2) 報告者打ち合わせ (3) 開催案内
- (4) 第3回研究会 9月20日(火)15時～17時 zoom オンライン開催
テーマ『with/after コロナ授業の現在地～コロナ禍の変容と今後の展望～』 報告者:京都大学喜多先生